令和２年１０月吉日

保護者の皆さま

御　　礼

人の役に立つことができる大人に
「泣き顔」を「笑顔」にできる人に

錦秋の候、保護者の皆さまにおかれましてはますますご健勝の事とお喜び申し上げます。

また日頃より本校の教育活動にご理解・ご協力いただいておりますことに深く感謝申し上げます。

さて、２ヶ月遅れで始まった「令和２年度」でしたが、早いもので１１月を迎えようとしています。過日の生徒作文の中に「知らないうちに春が終わっていた６月から私たちの新学期は始まりました。」という表現がありましたが、「春」はないまま１学期が始まりました。生徒や教職員にとって、そして保護者の皆さまにとって、とても重要だった３～５月を失い、「希望の春」は失われ、生徒の作文そのままに、季節は移り変わっていました。

３月初旬から始まった休校期間では、外出自粛の日々が続き、今後、社会はどのようになっていくのだろうと不安を感じながらの毎日でした。新学期が始まったのは６月。学習カリキュラムの変更だけではなく、消毒、検温、３密の回避、学校行事の見直し、日々の発熱者への対応、生徒の心のケア、そして自然災害に対する避難所運営の準備等で緊張の日々でした。現在も状況は改善されないままです。

６月の学校再開の日、教職員一同生徒が戻ってくるのを心待ちにしておりましたが、数日が経過し、予想以上の困難さが待ち受けていました。それは、「学校内消毒」と「検温チェック」というこれまで経験したことがない業務がいつまで続くのだろうという不安、そして新型コロナウィルスに関する漠然とした大きな不安でした。

検温チェックをする体制を整えるために、これまでのように昇降口を朝の早い時間から開放する事は出来なくなりました。発熱した生徒がチェックを受けないまま、校内で自由に活動しているという状況を防ぐためです。そのため、教室に入室する前の段階の昇降口で、すべての生徒の検温表を毎日確認しています。

確認を終えた生徒は教室に向かい、学年各フロアと教室前で担当の教職員が手洗いを確認し、教室に向かい入れます。本校の教職員は、事務方も含めて総動員の日々です。この流れは、今しばらく続けなければなりませんし、今後、インフルエンザ等の流行期に入り、さらに重要な事と考えております。

そして、放課後は、担当教員に清掃、消毒がゆだねられ、さらに部活動の開始前に健康チェックや器具の消毒等も求められました。教職員の負担がかなり大きくなると悩んでいましたところ、保護者の方々に「検温ボランティア」や「消毒ボランティア」にご協力していただけることになりました。私たち教職員にとって、救われた思いでした。保護者の方々の活動は、つい先日まで約５ヶ月間という長期間に渡って続けていただきました。

出張に出向きますと、「長中はいいね。うらやましいです。保護者の方々、皆さん優しいです

ね。」と声を掛けられます。本校の保護者の方々が話題になる事も多く、とても誇らしい気持ちでおりました。私たち教職員にとって多大なご支援をいただきましたことに、すべての保護者の皆さまに感謝の思いが尽きません。

その様子を見ていた生徒たちは、心を動かされ、様々な思いを抱いたようです。「なんとか感謝の気持ちを伝えたい」と感じた生徒たちが数多くおりました。そして自分たちは「大人の方々に守られている」という意識を強く感じたようです。各学年で感謝の気持ちを伝えようとする動きがおこりました。

七夕飾りで、黒板で、模造紙で、手紙で、自分たちの思いを伝えようとする動きが活発になりました。保護者の方々に来校していただき、活動していただきましたことで、彼らの心に育まれた財産も大きなものだったと思っております。

時を同じくして、「保護者の方々や地域の方々、先生方に感謝の気持ちをラジオで伝えられませんか、と生徒達から相談されているのですが・・」と３学年の担当教員から話を受けた時は、本当に嬉しく思い、なんとか実現させてあげたいと思いました。

そして、生徒たちの気持ちや思いは、９月２６日(土)「届け！　長中生の声」と題して、ラジオ放送されることになりました。番組内で生徒たちは、現在の学校の様子、長町中学校の紹介等を語った後に、保護者、地域の方々への感謝の気持ちを話し始めました。もしＦＭ放送を聞いていただいた保護者の方々がいれば、あの時の生徒たちの気持ちを理解していただいた事と存じます。

「保護者、地域の方々には消毒をしていただいた事、家族には、休校期間においしいご飯を毎日準備してもらった事、そしてＦＭ太白の方々には、ラジオ放送に協力いただいた事」彼らにとって、正直な気持ちを話してくれたと感じています。その中で、私たち教職員にもメッセージを届けてくれました。とても嬉しく思います。

この放送の最後に３年生の生徒が「私も、困っている人に手をさしのべられる人になりたい。泣き顔を笑顔にさせられるような大人になりたい。」というメッセージを話した時、思わず目頭が熱くなりました。きっと皆さまのボランティアの姿を見ながら感じたことだと思います。

保護者の皆さまのご協力・ご支援によって、生徒たちの中にこれまでになかったような気持ちが育っていることをとても嬉しく感じています。皆さまの姿がまさしく教科書であり、大人としての在り方を彼らに教えていただいたような気持ちです。

保護者の方々には、この活動だけではなく、合唱祭でのボランティア活動、部活動での消毒等のお手伝い等、本当に幅広く学校に関わっていただき、支援していただいております。まだまだコロナ禍での学校生活は続きそうです。私たち教職員も生徒と一緒にこの困難な生活に向き合っていきたいと思います。これまでの保護者の皆さまのご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。

※　ラジオ放送での生徒たちのメッセージは次のような言葉で締めくくられました。

これまで多くの方々の助けを得て生活してきました。学校生活を楽しく、安全に送れています。私は、多くの方々に支えられて生活していることに改めて気付かされました。それと同時に、誰かの役に立てる大人に、そして、困っている人に手をさしのべられることができて、「泣き顔」を「笑顔」にできる、そんなすばらしい大人になりたいと思いました。今の気持ちを、１５歳のこの思いを忘れずにいたいと思います。

保護者の方々のご支援が生徒の心に響いています。今後も長町中学校を、そして生徒たちを支えていただければ幸いです。

長町中学校教職員一同より